



苦しむ人の力になりたい

タイのCMで、心打たれる動画があるとのことで紹介され、試聴したとき、医療を志したきっかけを思い出しました。小さな男の子が、とがめられているシーンから始まります。甲高い声の女性が、「何を盗んだ、見せなさい！」と叫ぶと、ポケットの中から鎮痛剤の薬が出てきます。それを見ていた町の小さな料理店のお父さんが声をかけます。“お母さんは病気なのか？”。子どもは小さくうなずきました。お父さんは、ポケットからお金を出して、盗んだ薬を買いました。そして、お店で働いている娘に、野菜スープを持ってくるように声をかけます。とがめられている子と同一年ぐらいの娘は、少し不満げにスープを持って来ると、お父さんは、薬と野菜スープをその子に手渡します。しばらくお父さんの顔を見つめていた子は、スープと薬を握って走り去っていきました。

それから30年後、いつものようにお父さんは娘さんと小さな料理店を営んでいました。物乞いの人にもやさしいお父さんでしたが、突然意識を失い倒れてしまいます。そして集中治療を受けることになりました。脳出血を起こしていたのです。一命は取り留めましたが、届いた請求書を見て驚きました。792000パーツの支払代金はとても小さな料理店の営む家族が支払える額ではありません。困り果てた娘さんは、頭を抱えてしまいます。これからお店はどうなるのであろうか？お父さんの命はどうなるのであろうか？医師の説明をうけながら、悩んだあげく、娘さんはお店を売却することを決意しました。そんな朝、病室で目をさますと、新しい請求書がおいてありました。不安げに請求書を見ると、合計0パーツと書いてあります。そして、その請求書の下に、さらに文章が添えられています。“すべての費用は30年前に支払い済み”、“3つの鎮痛剤、及び一袋の野菜スープによって”。娘さんは30年前の出来事を思い出しました。あの時、お父さんが小さな子どもが盗みでとがめられているとき、優しい心で薬を代わりに購入して手渡したこと、さらにはお店の野菜スープも添えていたこと、その少年が、いま担当して治療に当たってくれている医師になっていること。“心より敬意を Dr.プラジャーク・アールトン”の文字を見て、娘さんはすべてを理解しました。わずか3分の映像ですが、心打たれます。何のために医療を目指したのか。ただ偏差値が高いとか、ただ収入が安定しているという理由だけではなく、純粋に苦しんでいる人の力になりたいという基本的な姿勢を思い出することができます。皆さんは、なぜ今の仕事を選んだのでしょうか？生活のためという人もいることでしょうか。ただそれだけではなく、願わくば、与えられた仕事を通して、苦しむ誰かの力になれるように意識が持てたならば、きっと困難を抱えたとしても、大きな力

になれると思います。緩和ケアは、その可能性を強く持つ医療であると確信しております。

(小澤竹俊)



大和生と死を考える会講演とシンポジウム

6月15日に大和生と死を考える会21周年記念大会で、めぐみ在宅クリニックが、講演会とシンポジウムを担当しました。テーマは、“人生の最期を穏やかに過ごすために”でした。小澤院長が40分ほど講演を行い、その後、在宅療養の準備のない老夫婦のご主人が末期癌になる設定でロールプレイをしました。緩和外来の場面、通院が困難となり訪問診療が開始となる場面、さらにはトイレの移動が難しくなってきた場面にわけて、訪問看護、訪問服薬、ケアマネジャー、訪問介護、訪問入浴のスタッフに壇上に上がっていただき、それぞれの事業所の特徴を紹介していただきました。そしてお母様の希望を叶えるため、病院から家に引き取り最期を看取った息子さんに、お話を伺いました。決断にいたるまでの葛藤や、家での様子などを伺うことができました。関わって頂きました大和市医師会訪問看護神原さん、訪問健ナビ薬局瀬谷井上先生、みずたま介護支援センター



真下さん、斎藤さん、まごの手訪問入浴粕谷さん、末期癌老夫婦役を担当した当院地域連携室の佐藤さん、岡田さん、そして体験談をお話し頂いた津田さん、有り難うございました。

人生の最終段階に対応できる地域スタッフ養成講座

2025年問題に対応できるように、地域で看取りに対応できる人材育成を目的にプロジェクトチームを立ち上げ、企画をしてきました。そしてこの度、“人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクト(JSP)”を正式に開始することとなりました。7月から10月までの第4水曜日午後から、場所はめぐみ在宅クリニック研修室にて開催します。第1回7月23日(水)看取りに共通する自然経過、第2回8月27日(水)在宅に必要な症状緩和の基礎知識、第3回9月24日(水)援助を言葉にする<1>、第4回10月22日(水)援助を言葉にする<2>、を予定しています。この研修を通して、地域で人生の最終段階で悩んでいる人とその家族の支援が広がっていくことを期待します。詳細は、めぐみ在宅クリニックのホームページ、フェイスブックにてお知らせいたします。

診療実績

	2006-2013年	2014年1月	2014年2月	2014年3月	2014年4月	2014年5月	2014年計	総計
訪問回数	26421	450	439	419	468	505	973	28702
自宅永眠	1087	20	17	14	11	18	29	1167
施設永眠	96	1	3	3	3	2	5	108
在宅(自宅+施設)	1183	21	20	17	14	20	34	1275
病院永眠	288	1	1	2	5	4	9	301